

講中お知らせ

平成30年(2018) 行動の年 4月号

法華講宝相寺支部「講中お知らせ」編集室 TEL 0739-22-2232
発行人 桐本昌吾 kirimoto3@msn.com / デザイン 玉置寛

●日如上人御指南 ■①仏恩 (ぶつとん) に報い奉る信心 ▼ただ御本仏大聖人の御遺命のままに、一天四海本因妙広宣流布に我が身を捧げていくことであります。▼すなわち、一人ひとりが地涌の菩薩の眷属として、持てる力を出しきって折伏を実践し、広宣流布に資していくことであります。されば、皆様方にはいよいよ強盛に自行化他の信心に励み、もって、まずは本年度の折伏誓願を達成し、さらに来たるべき平成二十七年・三十三年の目標達成を必ず成し遂げられますよう 平成25年5月広布唱題会

●日如上人御指南 ■②仏法聞法 (もんぼう) ▼すなわち法を聞くということが大事でありまして、▼聞法によって学び、そして学ぶことによって成長するのであります。(中略)目があっても、暗闇では暗くて物が見えないが、灯りがあれば、それを見ることができる。つまり、灯りとは智慧のことを指し、まさしく仏法を広く聞き、多く学ぶことによって智慧が生ずるのであります。しかし智慧があっても多聞に優れた者も、実際に修行が伴わなければ、なんの役にもたちません。

●日如上人御指南 ■③「御講にはいらっしやい」「月一回の大聖人様の御報恩の大事な事ですよ」▼御講に参加する事をよく説いて、そして、これを住職だけが声高に叫ぶのではなく、▼いわゆる組織活動ですから、組織を通じて、きちんと御講の参詣を促してゆくということが必要ではないか 近代組織の上においては、やはり組織論ということを考えなければいけないと思います。組織論というのは、簡単に言うと「一人でやらないで二人でやる。二人でやらないで三人でやる」「大勢でやっぺいこう」ということが、その原則であります。全国正副宗務支院長会議 平成25年4月17日

●支部指導部から ■④御供養の功德 ▼「思し食すべし、法華経をしれる僧を不思議の志にて一度も供養しなば、悪道に行くべからず。何に況んや、十度・二十度、乃至五年・十年・一期生の間供養せる功德をば、仏の智慧にても知りたし。此の経の行者を一度供養する功德は、釈迦仏を直ちに八十億劫が間、無量の宝を尽くして供養せる功德に百千万億勝れたりと仏は説かせ給ひて候。」(新池御書 御書一四五六)「供養」とは、信心をする法華講員同志が御本尊様御安置される寺院を広宣流布の暁まで永遠に外護していく事です。供養には▼財供養と▼法供養があります。財供養が御本尊様に金品・香華等の財物を供養すること。法供養は仏の説の如く法を弘め人々を利益する折伏と教化育成です。諸行事に影でお手伝いは▼身の供養です。

万年の外の未来までもなるべし。南無妙法蓮華経は、
目ひける功徳あり。無間地獄の道、
此の功徳あり。無間地獄の道、
たは正像二千年の法は、
是は正像二千年の法は、
報抄むるのみに日蓮が智のかしこきに
御書1036 (ほうおんしよう) 健治二年七月二十一日五十五



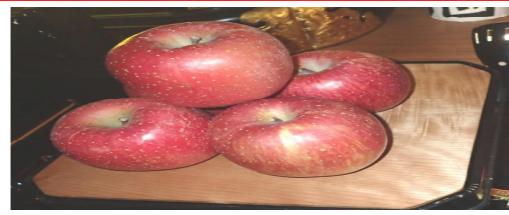
水道基礎工事完了



◆**仏教的思念** ●生死流転からの救い ▼人間は、より深く考えれば、生死流転する無常の存在だ。故に、この生老病死という流転、変移の人間存在を見つめ、生死を超えて常住の自己の真実の本地を見いだそうとしたのが仏法だ。▼結論的に言えば、南無妙法蓮華経こそ、真の常住不滅の体であり、それが自己はもとより宇宙万物の実相だ。▼だから貴方はすでにそこにいる。あなたはすでにそれなのだ。だから貴方はチョットだけ大聖人の妙法に目を開くだけでいい。

●**宗教的思念** ●人間は「自分自身を信じる」事が絶対に必要です。地獄・餓鬼・畜生・九界の自分では無く、仏の自分「妙法の自身」です。内・外から、それを阻止しようとする魔の働きが出ますが、それらを正則すれば「妙法の自分」が湧き出るのが大聖人の仏法です。その源こそ妙法の大御本尊なのです。

●**護る会から** ●言葉の力 ▼唱題をすると不思議に力が湧く ▼言葉の輪、座談会こそ妙法の泉である。▼ソッと咲くスマイルもタンポポも美しい。▼座談会には、職業も世代も異なる老若男女が集い、苦悩に沈む方は励まし、歓喜の報告には喜びを分かち合う。▼世の中、言わなきゃ何事も始まらず。人間、語らねば何が何だか分からない。座談会では どんな疑問も晴れる。



●**住職から** ●日蓮が弟子と云って法華経を修行せん人々は日蓮が如くにし候へ (四菩薩造立抄 1370) ▼自行若し満つれば必ず化他有り。化他は即ち是れ慈悲なり (観心本尊抄文段 219) ▼日如上人御指南 ■人が溺れているのを見て、助けられない人がいないように、我々も (中略) 誹謗正法の罪を犯してしまっている人々を救っていかねばならないのです。それが我々法華講衆の努めなのです (折伏要文二九)



第2日曜日は 御講の日。

◆**哲学的思念** ■流行の『個人主義』に対して。誠実に、謙虚に対話しよう。▼その時、私たちは、三つの意味で『人間』となる。一つは、ひとりの個人・人間として。二つ目は日本やアメリカといったその人の国や属性として。もう一つは、各々格別の主義主張の違いはあれども、普遍という共通の地に立つ人間として。

◆**カルト的思念** ■貞観政要に ▼もし君主が賢明をひけらかせば、臣下は、たとえ君主に過失があっても、誰一人諫めようとしなくなる。そうならば、国を滅亡させたくない願っても不可能だ。▼自分たちは賢明で正しい、間違いを犯すはずがないと勘違いしていたら、言っても無駄と判断し、誰も何も諫めなくなる。▼仏意仏勅だからと組織が正しいわけではない。どこまでいっても、人として文証・理証・現証の上で正しいかどうかである。この観点を忘れたら、傲慢になり、仏法から逸脱し、それが滅亡の因となる。その滅亡の因を、発展の因へと転換するのが仏法である。▼カルトの特徴は批判に対しては一切聞く耳を持たないこと。布教のために他国侵略でもしかねない視点と発想。まるで日本会議・統一教会・幸福の科学みたいな発想だ。昨今のソウカも典型的なカルトだ。とても宗教では無い。

◆**総代会から** ●差別感の背景 ▼ローマ人の例だが、アリア人とその系統の社会は「奴隷(スレイブ)」という存在に慣れていて、「奴隷は人間ではない」「動物と同じだ」「自分に所有権があるのだから、自分のものには何をしてもいい」という意識が根底にある。思想的には一神教と善悪二元論がその背景だ。▼マホメットも奴隷を「所有」していたと言うし、アラブ社会の戦争や略奪の中では、戦争捕虜は戦利品であり「奴隷」だったし現在も見聞する。どちらにしても外道の発想ではそうなるが、大聖人の妙法の仏法は全くそれらと異なる。



新調しました
和歌山 滝提灯作成
2018/03/08